

3 「ルールづくり」と「ふれあいづくり」の2本柱

基本ステップ3：ソーシャルスキルと自尊感情の育成

本章では、「基本ステップ3：ソーシャルスキルと自尊感情の育成」のための「ルールづくり」と「ふれあいづくり」という2本柱を具体的に提示します。



学級づくり・授業づくりの大前提

私たち教師が、日々、よりよい学級づくり・よりよい授業づくりを進めるための大前提として、今、心に留め置きたいのが



理論1 ハンカチ理論

です。

「ハンカチ理論」については第2章で詳しく述べましたが、ほつれた糸（気になる子）ではなく、ハンカチ（学級集団）を持ち上げる。この前提をしっかりと押さえることで、通常学級における特別支援教育が機能します。言い換えるならば、「気になる子」が周りの子に溶け込む学級集団が生まれます。



ルールづくり

学級づくり・授業づくりを通して、どのようにルールづくり（主

にソーシャルスキル育成に関連したルール)を進めればよいのでしょうか。以下、私自身の実践例を含めて具体的にお伝えします。

(1) ルールを提示する

私は大学講義のなかで、学生に以下の7つのルールを提示しています。

- ①私語を慎む
- ②時間前に教室に入る
- ③講義中の入退室を慎む
- ④教室をきれいに使う
- ⑤講義中の飲食を慎む
- ⑥携帯電話の電源を切る
- ⑦マフラー・帽子を外す

この7つのルールをご覧になり、何か気づくことはありませんか？ すべての文言を、否定・禁止の文末で終えないようにしているのです。

特別支援教育を専門とする私の目には、年々、自閉傾向の学生をはじめとする「気になる学生」、特に心がガラスのように割れやすい学生が学内に増えてきているように映ります。家庭や地域での「かわり体験の乏しさ」ゆえに精神的に打たれ弱い学生が増えているのだらうと推察しています。そうした学生の心には、本章の第1節でも述べたASD(自閉症スペクトラム障害)のある子どもにみられる「ガラスの心」に近いものも感じます。

「私語は禁止」などの否定的な文言は、そうした学生たちへの支援につながりません。私は、「ガラスの心を丁寧に扱う」という支援の鉄則から、できるだけ否定・禁止の文末にならないようにしています。このような文言は、自閉傾向のある学生に対する支援であるとともに、周りの学生にとっても受け入れやすい「ユニバーサル」(普遍的、万人向け)な支援ともなっています。

(2) 「2本のアンテナ」を立て、ルールを固める

2本のアンテナとは、「ルールを破ったとき(ルール違反)を見逃さないアンテナ」と「ルールを守っているとき(ルール遵守)を見逃さないアンテナ」です。つまり、

★ 理論 2

2本のアンテナ理論

です。例えば、教師や友だちの「話を聴く」というルールを守ることができるソーシャルスキルはどのように育めばよいのでしょうか? その際には、次のような技法が役に立つことと思います。

★ 技法 1

アイメッセージ

★ 技法 2

勇気づけ

子どもが授業中、ぺちゃくちゃとおしゃべりしていたら、誰もが注意や叱責をすることでしょう。それが「ルール違反を見逃さないアンテナによる感知と対応」です。「うるさい」「静かにしなさい」などは文脈に「あなた」が入り、かつマイナス感情も伴うことから、「対決(マイナス)ユーメッセージ」と呼ばれます。また、「話がしにくいんだけど…」「困るなあ、授業が進まなくて…」などは文脈に「わたし」が入り、かつマイナス感情が伴うことから、「対決(マイ